

テニス・全日本大学対抗王座決定戦

2年連続で準優勝



▲ トロフィーを手に喜びを分かち合う部員たち

女子の全日本大学対抗「行われ、専大は昨年と同勝ち、流れをつかむ。準決勝の園田学園女子大戦は2-2で迎えた最終のシングルで木川里奈(ネット情報3・共栄学園高)が、フルセットの末、3-2で接戦をものにした。

決勝の相手は今秋の関東大学リーグ戦を制した早大。全員が勝利を信じ、全力を尽くしたが、力及ばず敗れた。

松重貴子主将(文4・秀明英光高)は「決勝は早大が相手でも『自分たちは絶対に勝てる』と信じて、全員で勝ちにいった。結果は準優勝だが決勝まで勝ち進み、良い試合ができたのも、このチーム、このメンバーだったから」と、誇らしげに語った。

全日本学生フィールドアーチェリー選手権が10月8日から10日まで、群馬県の国際フィールドアーチェリー場で開催された。大会では、星達也

アーチェリー・全日本学生フィールド選手権 星が復調3位入賞 室内個人戦に向け意欲



▲ 多くのフィールドを経験した星(写真はリーグ戦のもの) (写真提供：リーグ戦のもの)

(経営3・馬頭高)が3位に入賞。予選4位から一つ順位を上げた。今大会は、昨までの距離が表示された「MARKED」と表示されない「UNMARKED」の2つのフィールドで競技を行い、合計得点で順位が争われた。星は「各フィールドの様子が異なっており、プレートを落として、今年は調子を落とし、

平澤優勝 佐藤3位 関東学生フロンティアカップ(10月20-22日、駒沢第1球技場)で平澤大典(経営2・栄東高)がトナメントを制し、優勝。



▲ 着実に戦果を積み重ねていく上原

フェンシング・関東学生選手権 男子エペ個人で上原優勝 団体男子サーブルは3位 関東学生フェンシング選手権が10月7から14日まで、駒沢屋内球技場で、男子エペ個人で行われ、男子エペ個人では「周の方々に自分(ラートシュ高)が優勝を果たした。上原は「久々の優勝な選手になりたい。世界ランキングの上位にも食

男子エペ個人で上原優勝 団体男子サーブルは3位

卓球・全日本大学総合選手権



▲ 優勝候補相手に白星を挙げた天野・原ペア (撮影=馬場雄也・ネット情報4)

天野・原ペアが3位

全日本学生選抜へ期待



▲ 準々決勝、対東海大戦での山本貴之(経営2・福岡舞鶴高)と右

19年ぶりの上位入賞

体力強化が実を結ぶ

全日本学生剣道優勝大会で完勝すると、2回戦が10月31日、大阪府立愛知学院大、3回戦の体育館で行われ、専大は3位に入賞。19年ぶりの上位入賞を果たした。

と悔しさをあらわにした。また、「今のチームは先輩、後輩の関係が円満で、雰囲気も良い。それが団結につながった」と、勝因を語った。

体力面、団結力ともに着実に力をつけている剣道部の、今後の活躍に期待したい。(山内 夏穂・人間科学)

専修大学

No.296

大会結果 予定は体育会ホームページ(専大ホームページ「スポーツ」からログイン)で確認ください。専大スポーツWeb(http://sensuipo.web.c.c.com)で大会結果を配信しています。

バレーボール・秋季関東大学リーグ戦

1部リーグ上位進出 端場が「サーブ賞」獲得



▲ 強力なサーブで流れを引き寄せた端場

秋季関東大学バレーボールリーグ戦の最終戦が10月17日、日体大米本体育館で行われた。専大、国際武道大、明大が2位タイで並ぶなか、国際武道大との直接対決に惜敗。6勝3敗で明大と並んだが、セット率で0.と喜びを語った。

最終戦は、緊張のせいか動きが堅く、第1セットを落とす。しかし第2セットで、栗山雅史主将(商4・佐賀商高)のスパイクが鮮やかに決まるとムードは一変。相手を寄せ付けない勢いで、第2、3セットを連取した。しかし、第4セットは序盤こそリードしたものの、中盤からシーソーゲームとなり、21-25で落とした。フルセットにもつれ込むが、体力の差を埋めきれず、12-15でこのセットを奪われ、2-3で敗れた。(小澤 幸希乃・経営2) (写真提供)

全日本大学総合卓球選手権(個人)が10月22日から24日まで、大阪なみはやドームで行われ、女子ダブルスで天野友未(文3・日南学園高)・原ちひろ(文2・青森山田高)ペアが3位入賞した。天野・原ペアは2回戦から出場。初戦こそ苦戦を強いられたが、その後準々決勝では優勝候補で第1シードの早大ペアを破る金星を挙げた。準決勝は今大会を制した東京富士大ペアに2-3で敗れたが、「優勝したペア(原 裕太郎・経営2)